Course number	U-LAS60 10004 OJ17				
Course title (and course title in English)	統合型複合科目（統合群i）：デザイン学 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Interdisciplinary Sciences i) :Design Studies	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Professor,Takushi Sogo Graduate School of Management Professor,YAMAUCHI YUTAKA Graduate School of Engineering Professor,KOMORI MASAHARU Graduate School of Engineering Professor,KANKI KIYOKO Academic Center for Computing and Media Studies Professor,NAKAMURA YUUICHI Graduate School of Informatics Professor,Takayuki ITO		
Group	Interdisciplinary Sciences	Field(Classification)	Interdisciplinary Sciences		
Language of instruction	Japanese	Old group		Number of credits	4
Number of weekly time blocks	2	Class style	Lecture + Seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2026・First semester
Days and periods	Fri.4・5	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

国際社会は、温暖化、災害、エネルギー、食糧、人口など複合的な問題の解決を求めている。このような問題の解決には、異なる分野の専門家が協働して当たる必要がある。京都大学では、大学院生を対象とする「デザイン学大学院連携プログラム」および大学院教育支援機構の「デザイン学コース」において、異なる分野の専門家との協働によってこうした問題の解決策をデザインできる人材の育成を行っている。

本科目は、これらの大学院カリキュラムの導入編として、デザイン学共通科目を中心に、学部生にも理解しやすいよう概論科目として構成したものである。具体的には、情報学、機械工学、建築学など、各専門分野におけるデザイン理論やデザイン手法を講義で学びつつ、講義に関連するテーマについて演習を行うことで学びを深める。

なお、本科目の講義部分については、デザイン学大学院連携プログラムと活動を共にする「京都大学デザインイノベーションコンソーシアム」の会員企業の構成員もオンラインで受講し、議論に参加する。さまざまな知識や実務経験を持つ学外の人材とともに質の高い議論を行うことで、より深い学びを目指す。

○統合型複合科目分類【理・文】
主たる課題について理系分野の要素が強く、副たる課題については文系分野の要素が強いと考えられるもの

[Course objectives]

各専門分野におけるデザイン理論やデザイン手法を理解し、デザインを実践するための基礎的な素養を身につける。

[Course schedule and contents)]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません）

Continue to 統合型複合科目（統合群i）：デザイン学(2)↓↓↓

◆講義　　金曜4限（共東21）
・第1回　イントロダクション（十河）
　本科目で学ぶ内容と全体構成について説明し、現実社会の問題においてデザインが果たす役割について理解を深める。
・第2回-第3回　エスノメソドロジーと人間行動のデザイン「自然な人間行動の調査とそれに基づくサービスデザイン」（十河）
　（ゲスト講師：京都府立大学 農学食科学部 准教授　平本 毅）
　サービスデザインの文脈において、考案したデザインが有効であるのは、自然な人間行動の中に埋め込まれた時である。「エスノメソドロジー」と呼ばれる社会学の方法は、実際の人同士のコミュニケーションを観察し、人がその場で自然に行動する条件を明らかにする。本講義ではエスノメソドロジーの考え方と小売店での具体的な接客場面の分析例を紹介しつつ、分析によって明らかにした自然な人間行動に基づいたサービスデザインについて議論する。
・第4回、第7回　デザインの新展開 ― 価値を転換するイノベーション（山内）
　社会において価値を生み出すには、潜在ニーズを満たすだけでも、問題を解決するだけでも、美しいものを作るだけでも不十分であり、人々の自己表現と結びついた新しい時代を表現することが求められている。本講義では、まず、サービスデザインの文脈で、具体的なサービスの分析を通して、「闘争」としてのサービスの理論を学び、人間-脱-中心設計の方法論を理解する。さらに、この方法論を発展させ、社会の変化を読み解き、人々の自己表現を可能にする、新しい文化をデザインする方法論を学ぶ。
・第5回-第6回　創造のための思考法（小森）
　アーティファクト（人工物）を創造する際や問題の解決に取り組む際の思考法として、PDCA (Plan, Do, Check, Action)のサイクルを繰り返して小さな改善をしていくカイゼン思考や、事実に基づいて論理的に筋道を立てて考えるロジカルシンキングなどがある。これらの思考法について概説する。また、人類や社会の未来を予測することが難しいVUCAの時代に対応する思考について論じる。さらに、自らの直感や妄想を重視し、それを起点として創造するアート思考と呼ばれる思考法について解説し、それを実践するためのトレーニングを紹介する。
・第8回-第9回　まちづくり（matidukuri）「空間基準を超えて－社会包摂性に依拠する『まちづくり』が示す公認化（Officialize）の都市計画」（神吉）
　関西で始まった「まちづくり」は、世界各国で知られる概念となり、コミュニティが自立と社会包摂性を獲得し、個人の自己決定を相互に尊重する社会関係のもとで居住環境を進化させていくプロセスと理解されている。その成果は空間的基準で統御する法定計画管理に留まらず、居住地環境・地域社会の将来性を評価しそのあり方を公認するアプローチの拡大に繋がっている。本講義では、一般規準によらない新たな「公認」の都市・農村計画を論じる。
・第10回、第13回　情報のデザイン「情報を効果的に伝えるための方法論」（中村、伊藤）
　どんなに価値ある情報も、それが人に正しく伝わらなければ意味がない。本講義では、情報デザインを「伝えたい情報を対象者に的確、効果的に伝えるための規範・方法論」と捉え、情報デザインに関わる諸概念について事例を交えながら紹介する。後半では、情報技術による未来社会のシステムのデザインについて議論する。
・第11回-第12回　表現と認知「デザインに関わる人の認知と特性」（十河）
　（ゲスト講師：公立はこだて未来大学 情報アーキテクチャ学科 教授　中小路 久美代）
　社会的な文脈において人の関与しない人工物は存在しない。人工物は、人を含む系として人の営為によって構成される。本講義では、人の営為としての知的創造作業や知識共創の側面に焦点をあて、その原理とモデル、および関連する認知科学・社会科学の基礎を解説する。
・第14回　総括1（十河）
　これまでの講義と演習をグループで総括し、発表を行う。
・第15回　フィードバック

Continue to 統合型複合科目（統合群i）：デザイン学(3)↓↓↓

◆少人数演習　　金曜5限（共東12）
「実社会におけるデザインの実践」
　大学院のカリキュラムであるデザイン学の演習では、与えられた実世界の状況から解決すべき問題を発見し、その問題をチームで解決するプロセスを体験することで、デザインの実践を行い、デザイン理論とデザイン手法の習得を行う。そこでは受講者自身がそれぞれの専門分野の専門家としてチームで取り組み、問題を深く掘り下げることが求められる。
　これに対して本演習では、学部1～2回生である受講者が専門性を有することを前提とせず、さまざまな専門分野におけるデザイン理論やデザイン手法を実際に体験し、それらの間の関係性を含めてその意義を理解することを主な目的とする。具体的には、各講義の内容と対応する形で、2回の演習を1セットとし、当該分野のデザインを実践する形式を基本とする。なお、数名程度のグループに分かれてワークを行うが、統合型複合科目としては1つの班として実施する。さまざまな専門分野のデザインを体験することにより、受講者が、将来、現実社会の複合的な問題に直面したとき、自身とは異なる分野の専門家と円滑に協働して問題解決に当たるための素地を身につけることを目標とする。

・第1回　グループディスカッションの基礎（十河）
・第2回-第3回　観察に基づくサービスデザイン（十河・平本）
・第4回、第7回　新しい文化のデザイン（山内）
・第5回-第6回　創造のための思考法（小森）
・第8回-第9回　地域社会のデザイン（神吉）
・第10回、第13回　情報のデザイン（中村、伊藤）
・第11回-第12回　人の認知と特性（十河・中小路）
・第14回　総括2（十河）
　これまでの講義と演習をグループで総括し、発表を行う。
・第15回　フィードバック

※講義と演習の順序は変更することがある
※フィードバック方法は別途指示する

[Course requirements]

特になし。特別な予備知識は必要とせず、文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。
受講者がオンラインで出席することは認めない。

[Evaluation methods and policy]

講義については14回の授業の平常点（出席と参加、課題提出の状況など）40点、演習については14回のグループ活動40点、最終レポート20点で評価する。

[Textbooks]

Not used
適宜、プリント等を配布する。

[References, etc.]

（References, etc.）
石田亨（編）『デザイン学概論』（共立出版）ISBN:978-4-320-00600-3
山内裕・平本毅・杉万俊夫『組織・コミュニティデザイン』（共立出版）ISBN:978-4-320-00601-0
田中克己、黒橋禎夫（編）『情報デザイン』（共立出版）ISBN:978-4-320-00603-4
守屋和幸（編）『フィールド分析法』（共立出版）ISBN:978-4-320-00604-1
佐宗邦威『直感と論理をつなぐ思考法 VISION DRIVEN』（ダイヤモンド社）ISBN:978-4-320-00604-1

Continue to 統合型複合科目（統合群i） ：デザイン学(4)↓↓↓

統合型複合科目（統合群i） ：デザイン学(4)

[Study outside of class (preparation and review)]

適宜、講義中に指示する。

[Other information (office hours, etc.)]

「デザイン学大学院連携プログラム」の参画専攻の専門分野（情報学、機械工学、建築学、経営学、心理学）に限らず、全学部からの履修を期待する。

成績証明書等では、表示文字数の制約上、英文科目名「Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars」が「ISS」と略記されます。

[Essential courses]